

種名 ウワズミザクラ
万葉時代の呼名 かには・櫻皮



詠人 山部赤人

万葉集卷六 九四二

味さばふ妹が目離れてしきたえの
枕もまかず櫻皮巻き作れる舟に

【現代訳】

妻に別れ、その手枕もしないで、櫻の皮を巻いて作った舟に……

【ウワズミザクラの解説】

バラ科ウワズミザクラ属の落葉高木

高さは10mほどになる。6月上～中旬にかけて咲く花は、いわゆる「さくらの花」というイメージではなく、小さな花びらが集まり、稲穂のように咲く。また秋になり、赤から黒色に熟していく果実は、野鳥が好んで食べるので、この木の周りにはたくさんの幼苗が生えていることが多い。

ウワズミザクラは昔から人々の生活と関わりが強い樹木で、古来この材のことを波波迦（ははか）と呼び、材の上面に溝を彫り（和名ウワズミザクラの由来）その材を火の中に入れ、亀の甲羅を焼いて、甲羅のヒビの割れ方により吉凶を占った。ウワズミザクラの材はとても堅く、地方により金剛桜、鉦柄（なたづか）とか呼ばれ、版木、彫刻材に使われた。